

みたか国際化円卓会議第 12 期 第 2 回会議録要旨

日 時	令和 4 年 1 月 24 日(月) 午後 6 : 30 ~ 8 : 00
会 場	教育センター 第三中研修室
出席者	委員 7 名 (欠席委員 7 名)、事務局 : 3 名、傍聴 : 1 名

【当日配布資料】

- (資料 1) みたか国際化円卓会議 第 12 期委員名簿
- (資料 2) 多文化共生センター (仮称) について
- (資料 3) 三鷹市の外国籍市民の人口
- (資料 4) 第 1 回会議録要旨

【記号について】

・	委員の発言
→	事務局の発言

【議事内容】

- 1 開会のあいさつ
- 2 新任委員によるスピーチ (橋本委員)
- 3 多文化共生センター (仮称) についてのワークショップ (資料 2)

→三鷹駅前の再開発事業の整備を予定している。

「交流・理解・支援」のという 3 つの機能が融合した拠点であると想定をしている。

- (1) 国際化から多文化共生へ地域の中でともに歩んでいく。
- (2) 男女平等、多様な性としての人権の尊重
- (3) 平和施策を基礎とした、人権、多文化共生の取り組みの推進

昨年の春に第 11 期の提言いただいたが、その中で大きく 5 つのキーワードが出された。

「交流」と「理解」と「支援」の 3 つをセンターで取り組む多文化共生の活動に据え、「環境」と「デジタル化」の 2 つを多文化共生の活動を支える手段として整理した。

今日は、進行役を中心に自由な意見をたくさん出してほしい。

(ワークショップの進め方及びルールの説明)

～ワークショップ 「交流」について・「理解」について (各 20 分程度) ～

【以下、各グループの発表の内容を箇条書きしています。】

グループ A (森田さん)

◎交流

- ・ MISHOP で行っているフェスティバル・フェアウェルパーティーなどの大人数で交流する活動。
- ・ ジャパニーズラウンジやイングリッシュラウンジで行っている少人数で交流する活動。
- ・ 時事問題をディベートする。
- ・ 5～6 人でお国自慢などをするミニ講演会。
- ・ グループ活動 動物好き、漫画好き、文学好きなど。
- ・ 短期の家庭訪問として夕食や昼食を食べに行く。

《体験》

- ・ 住民協議会での外国籍の人向けの活動に積極的に参加する。例えば神楽がある。
- ・ 一番大事なのは食生活だと思う。食べることと作る事。

◎理解

《文化・歴史を理解》

- ・ 何故この国ができたのか？
- ・ 母国を語れる
- ・ 旧満州で何があったか？満蒙開拓団、植民地政策とは？第二次世界大戦はどのように起きたのか？等を知る。

《環境問題》

- ・ フランスでは肉を使わない料理が新しい
- ・ 動物を飼育することによる CO2 を増やしている（牛のげっぷなど）という問題。
- ・ これらを理解することによって三鷹の自然が守られると思う。

グループB（友部委員）

◎交流

《文化体験》

- ・ ドローンでみると三鷹の状況がわかる。
- ・ 日本や他国の文化を見よう。
- ・ 出し物等を通して文化体験ができるのではないかな。

《アクティビティ》

- ・ 体を動かす運動会等、肌でわかる。
- ・ これまではボランティアで行っていたが、責任も取れないし限界があるので自治体も加わる。
- ・ 三鷹のホストタウンであるチリとの交流。学校給食はオリンピックが終わったら、切れている様子。
- ・ 留学生を行き来させる。
- ・ 継続していくことが交流。
- ・ スペイン語を授業に取り入れる。
- ・ オンラインでいろいろな事ができるのではないかな。
- ・ 個人レベルから行政レベルまで、幅広く交流ができるとよい。
- ・ 文化やスポーツを通して交流できる。
- ・ パーティーなどお祭り等でコミュニケーション活動をする。

◎理解（呉委員）

- ・ 今まで住んでる場所 三鷹市の子どもも大人も興味のあることについて知る、学ぶ。
- ・ 自分の国と相手の国を理解する。資料を読んだりビデオをみたりするだけではなく、直接話す。
- ・ 会話が合ったほうが心のコミュニケーションができると思う。
- ・ 色々な国の資料、教科書、服、食事等を通して触れる場所を設置して他の国の文化を理解する。
- ・ 日本の小学生や中学生は社会科目で知る事ができるが、会社では誰も教えてくれない。日本の社会に
- ・ 対して理解することは重要な知識だと思うので、学校の先生を外国人の大人向けの授業ができるといい。
- ・ 食文化、衣服等、自国の自慢ができるイベントを開催する。
- ・ 環境問題についてはいろいろな国の文化や考え方を理解することが重要だと思う。
- ・ 例えばプラスチックは考え方と使い方は中国と日本では違う。
- ・ 昔の人の知恵、風呂敷や竹でできたバケツ等、環境にやさしいエコなものがあるので、実際に触れることができればいいと思う。

- ・ 市内の建物自体は密集していないので、可能であればドローンを飛ばすことができれば、これまでとは別の視点から理解することができると思う。

(ワークショップ発表終了)

→今日は時間の都合上、交流と理解の2つのテーマで話して頂いた。次回の会議では共有できるようにしたいと思う。また、3つ目の支援のテーマについてもワークショップで話しあえたらと思っている。よろしく願いしたい。

4 その他

→第1回会議での質問にあった三鷹市の外国籍市民の人口について。コロナ禍の中で減少しているのではないかと？

過去5年間の2020年まで上昇。2020年4月に緊急事態宣言発出、その後2回の緊急事態宣言。2020年を境にピーク時から比較すると約400人強減少している。母国に戻って、その後日本に戻ってくるのが、入国出来ないのではないかとと思われる。(資料3)

5 次回日程

→次回第3回の日程は3月下旬を予定している。決まり次第連絡をする。

・(座長)今日は色々な視点から考えたが、外国人の約400人は三鷹から離れたが、残っているみなさんと触れ合い理解をしたい。その為には今までにないことにチャレンジしていきたい。今日の開催準備もありがとうございました。

以上